

令和3年度「かごしま地域活性化協働推進事業」実施結果

屋久島における生物多様性保全事業

実施主体

(団体名)特定非営利活動法人 HUB&LABO Yakushima
(担当課名)環境林務部 自然保護課



背景

屋久島はその自然環境の豊かさから世界自然遺産の登録地域としても知られ、ヤクスギ帯をはじめ山岳部や森林など陸域の自然環境に対しては強い関心が寄せられている。しかし同時に、全国有数の豊かな海水魚相を有し、淡水域でも南西諸島由来の希少種がたびたび確認されているにもかかわらず、水域の生物多様性については島内外を問わず関心が薄い。

地域課題

水域の生物多様性については島内外を問わず関心が薄い。その原因の一つとして、水域の包括的な調査がこれまであまり行われておらず、希少種の有無や外来種の影響なども大まかにしか判明していないために、屋久島の水圏生物相についての認知度や注目度が低いことが挙げられる。

屋久島の生物多様性を保全していくためにも、屋久島の河川から海までの流域全体の水圏生物相の生息環境を調査し、その結果から生物多様性の意義について普及啓発することを通じて、地域が一体となって流域全体の水圏生物の多様性保全を行っていく必要がある。

事業のねらい

屋久島の生物多様性を保全していくためにも、屋久島の河川から海までの流域全体の水圏生物の相生息環境を調査、データの収集を自分たちで行える人材を育成する。

また、屋久島島民に生物多様性の重要性についての普及啓発活動を行い、希少種保全と外来種駆除の意識を高める。

事業概要

- 1 水辺の生物多様性講座及びプロジェクト説明会
地域住民を対象に本事業の説明会及び専門家による生物多様性講座を開催する。
- 2 季節ごとの生物調査
一湊川及びビテゴ川において、夏・秋・冬の各季節における生物調査を実施する。実施にあたっては専門家の指導のもと、地域住民が主体となり、調査方法や生物相について学ぶ。
- 3 調査内容の報告会及び水辺の生き物観察体験会
生物調査によって明らかになった水辺における生物多様性を地域住民に普及するための報告会を開催するとともに、水辺の生き物観察体験会を実施する。



成果

- 1 夏・秋・冬の流域全体の生物調査の結果、一湊川及びビテゴ川にて142種生息していることを把握した。そのうち11種の絶滅の恐れがある希少種を確認することができ、外来種は確認されなかった。
- 2 地域住民主体の生物調査や報告会を通して、のべ203名の方に参加いただいた。本事業を通して、地域における希少種保護と外来種防除の意識を高め、水域の生物多様性保全を目的とした島民コミュニティを立ち上げ、生物調査が行える人材育成ができた。
- 3 生物調査方法やプロジェクトの成果報告を掲載した調査報告書を作成し、来年度以降の地域住民主体での生物多様性保全活動につながる資料を作成することができた。

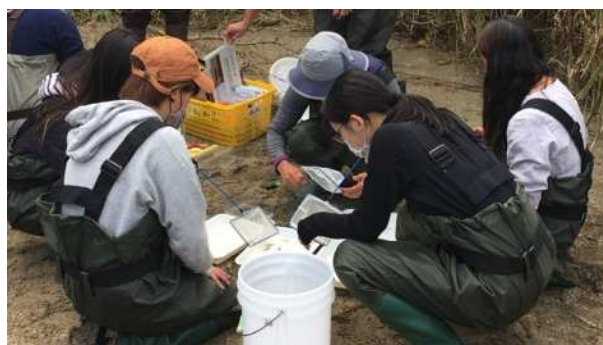


協働の状況

- 特定非営利活動法人
HUB & LABO Yakushima (事業実施主体)
- 特定非営利活動法人くすの木自然館
(調査方法・生物種同定の助言)
- 環境林務部 自然保護課
(広報, 指導, 助言)

今後の取組

- 本事業を通して生物調査に関わった地域住民が年間を通して生物調査を進めながら、河川流域の生物多様性保全についての意義を高め続ける仕組みを構築する。
- 調査活動を通して島民が希少生物減少や外来種の増加などに敏感に気づく仕組みを作ることで、希少種保護や外来種駆除に向けた取組を推進する。



協働事業の感想

団体からの声

本事業を通じて、水域の包括的な調査を行うことにより、希少種を多数確認することができた。

また、屋久島の水圏生物相のつながりから生物多様性の保全の重要性を示すことができた。

担当課からの声

本事業を通じて、季節ごとの屋久島の水圏における生物多様性を把握することができた。

また、調査にあたっては地域住民が主体となることで、地域における生物多様性の保全に対する意識を醸成することができた。